

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 地域の人々の協力のもと、地域に根ざした学校づくりを進める。 2 豊かで逞しい心をはぐくみ、基礎学力の充実など、生涯にわたる学習の基盤を培い、「生きる力」を育成する。	(成果) ・土曜日の活用やシラバスの作成等、次年度に向けた活動計画の具体化 ・部活動面での府大会優勝や全国レベルでの活躍 ・学校経営の成果と課題を把握による重点目標の明確化 (課題) ・学力の充実・向上による進路希望実現に向けた取組の強化 ・学校経営改善へ結ぶための評価の意識の一層の向上 ・学校評価の点検・検証・公開等のより適切な機会設定	1 学力向上、希望進路実現、生活指導や部活動の充実により、地域の中学生や保護者から選ばれる学校を全教職員で創り上げる。 2 少子化を踏まえ、旧郡外からは明確な目的意識を持った生徒を入学させる。 3 全教職員が共通理解・認識をもって学校運営を行う。教職員の合意形成は既成や固定の概念にとらわれることなく工夫改善し、生徒と接する時間を確保する。 4 特色ある教育課程や部活動の推進を図る。 5 教職員個々の長所を最大限に生かす学校運営を目指すとともに、チームワークによって勤務時間の偏りをなくし、教職員と家族の心身の健康を保持する。 6 広報活動を積極的に行い、中学生及び地域の人々の本校教育活動への理解を一層深める。

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
総務部	組織・運営	学校教育目標の具現化	前年度の課題を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。	A	短期の目標は概ね達成できた。 内部評価・授業評価の活用 部長による分掌間の連絡調整の円滑化 学校の組織的経営意識の強化 かなり点検・改善の意識が向上した。	
			目標の具現化のため、全教職員が一致協力して取り組む。	B		
		内部評価・外部評価による点検・改善を行い、評価結果を公表する。	A			
		各分掌間の連絡・調整により、分掌相互の連携を重視した運営を行う。	B			
	連携を重視した組織体制確立	部長会議・教科主任会議で決定された内容を各分掌や各教科で具現化する。	B			
		分掌及び教科会議を充実させ、具体的な取組の進捗状況の点検、改善を行う。	B			
	家庭・地域との連携	家庭・地域社会との連携	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。	B	開放講座開催、PTA・後援会・小中高連携 学校便りオープン、情報発信として効果的 より有効で適切な時機の職員研修の開催 10年期研修者、家庭、森林リサーチ科実施 外部講師はさらに有効活用が必要	
			地域・関係諸機関等の行事参加、開放講座の開催など、開かれた学校づくりを進める。	A		
	研修・研究活動	研修・研究による指導力向上	各学期2回、学校便りを発行することなど、広報活動を積極的に推進する。	A		
			各学期に校内研修を行う。	A		
	教務部	人権教育	生徒の進路や生き方と関連させ、人権意識の高揚を図り、人権問題に対する正しい理解・認識の基礎を培う。	積極的に研究授業や公開授業を実施する。	B	きめ細かな人権教育指導を展開 人種差別・同和問題等の校内研修実施 図書館活動の様々な活動が活性化 図書委員のさらなる活用 教職員や地域との連携の一層の推進
				外部講師の活用を図る。	B	
PTA等渉外関係		生徒を中心に据えたPTA活動を目指し、適正な諸会議の運営を図る。	分掌や担任、家庭・地域・関係教育機関と連携し、人権上の問題の実態把握に努める。	A		
			教職員の人権教育の力量を高めるため、人権問題に関する教職員研修を充実させる。	B		
図書館管理運営		図書館利用の推進	計画的で適切な文書作成と公文書の発送を行う。	A		
			担当者会議での提出案件の検討を事前に十分に行う。	A		
進路指導部	教育課程	特色ある教育課程の編成	図書委員会を中心とした生徒参加型の図書館づくりを推進する。	B		
			アンケート等の実施により図書館活用の充実を図る。	A		
	教科指導	シラバスにより科目ごとの計画を明確にし、生徒の自主的な学習習慣を確立させる。	図書館の活動内容についての広報を活発に行う。	A		
			学科・類・類型別等に応じた特色ある教育課程を編成する。	A		
	広報活動	選ばれる学校を目指し、本校の特色を積極的にアピールする	生徒の多様な進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。	A		
			適切な教育課程になっているか、常に点検する。	B		
進路指導	生徒の目的意識を高め、明確にさせていくための計画的・系統的な指導の確立	シラバスを生徒に公開する。	C			
		アンケートを活用し、生徒の実態を把握していく。	B			
		公開授業週間を設定し、教員の研修とする。	B			
		参加生徒のためにより工夫した体験セミナーの実施	A			
進路指導	主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	プレゼンテーションなど、より工夫・改善された内容による学校説明会への参加	A			
		各学年に応じた進路指導目標及び計画を充実させ、その具体化に努める。	B			
		進路学習及び進路説明会等の系統化とその内容の充実を図る。	B			
		土曜日・放課後・休業中等の計画的・継続的な進路補習を進める。	A			
進路指導	主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	模擬試験、資格・検定試験等の受験を勧め、進路選択能力をつけさせる。	B			
		進路情報の収集・整理に努め、日常的な進路相談活動の充実を図る。	B			
進路指導	主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	長期休業中の図書館の有効活用を図る。	B			
		進路情報収集・整理に努め、日常的な進路相談活動の充実を図る。	B			